

4-1 申請書のダウンロード

申請書は日本学術振興会や文部科学省のホームページからダウンロードできる。応募する研究種目によって日本学術振興会と文部科学省で異なっている。日本学術振興会からダウンロードできる申請書は特別推進研究、基盤研究(S・A・B・C)、挑戦的萌芽研究、若手研究(A・B)、研究活動スタート支援、奨励研究、研究成果公開促進費、特別研究員奨励費(特別研究員)等であり、文部科学省からは新学術領域研究、特別研究促進費等である。申請書は、研究計画調書と称され、2部から構成されている。

日本学術振興会のホームページからは、公募要領、研究計画書の前半部分と研究計画書の後半部分に関する資料を入手できる。研究計画書の後半部分のダウンロードできるファイルにはMicrosoft WordとPDFファイルがあるが、通常はMicrosoft Wordファイルを使用するのが一般的である。日本語版と英語版がある。申請書の様式は、わずかな変更があるだけで、基本的には毎年同じである。

研究計画調書の前半部分は応募情報に関するWeb入力項目であり、後半部分は応募内容ファイルである。応募情報は、研究代表者がWeb上で電子申請システムに入力する項目で、応募分野、分科、細目、細目表キーワード、研究代表者情報(氏名、所属研究機関、部局、職)、研究課題名、研究経費、研究組織(研究代表者、研究分担者及び連携研究者)などである。研究計画調書の後半部分は、次の項目からなる。

- ◆ 研究目的
- ◆ 研究計画・方法
- ◆ 今回の研究計画を実施するに当たっての準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法
- ◆ 研究業績
- ◆ これまでに受けた研究費とその成果等
- ◆ 研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性
- ◆ 人権の保護及び法令等の遵守への対応(公募要領4頁参照)
- ◆ 研究経費の妥当性・必要性
- ◆ 設備備品費の明細・消耗品費の明細・旅費等の明細
- ◆ 研究費の応募・受入等の状況・エフォート

上記の各項目について、審査基準はどのようになっており、どのように記載すべきかについては、後述する。

著者にも経験があるが、申請書の提出締切の1か月前頃から、申請に関する構想の検討を開始することが多いのではないだろうか。中には、1週間前から準備を始める方もいるようである。それで、採択に至る方もいるかもしれないが、審査員をつとめてみると、急いで書き上げて、熟考していない研究計画調書は直ぐにわかる。

出来れば、十分に時間をかけて研究計画調書の内容を練りあげて頂きたい。その考え方の一つとして、例えば、**基盤Cで500万円申請するとすれば、研究計画調書の重要な研究目的、研究計画・方法などは6ページ程度であり、1ページ当たり83万円、申請書総ページが15ページとしても1ページ当たり33万円となる。それだけの価値のある研究計画調書の1ページ、1ページと位置付けて、十分なエネルギーと時間をかけて研究計画調書を仕上げて良いのではないだろうか。**出来れば、10月が提出締切であれば、4月頃から申請する研究の概要について検討を始めて、夏休み前には、大方の構想と文章が出来上がっているのが望ましい。できるだけ早く、研究計画調書をダウンロードして、どんな内容を記載したらよいか検討を開始すれば、それだけ内容が熟成し、9月の実りの秋を迎えることができるであろう。

うわ話: 特別研究員申請書の1ページの値段

特別研究員の研究計画調書は9ページである。特別研究員DC1として採用になれば、博士課程後期の3年間「研究奨励金」として月額20万円の支給を受ける。返還の義務はない。3年間の研究奨励金の総計は720万円である。研究計画調書の総ページは9ページであることから、1ページ当たり、80万円に値する。DC2としても、2年間であるが、1ページ当たり、約53万円に値する。私は研究室の学生に、1枚80万円

の価値があるので、いくら時間をかけてもよいはずなので、熟考して準備するようになってきた。この研究計画調書には指導教員等による申請者の評価書2ページ分があり、指導教員にとっても、緊張感をもって評価書の内容を熟考する価値がある。おかげさまで、研究室の学生のほとんどが特別研究員として採用されている。その評価書の記載の仕方などは後述する。